

「没落の歴史」から学ぶ教訓

～ 大人の精神の脆弱化と子どもの成長～

立科町教育相談員 岩上起美男

相談時間等

月・水・金曜日

●立科小学校/午前9時～午前11時30分
電話 56-3131 (呼)・有線2190 (呼)

●立科中学校/午後2時～午後5時
電話 56-1076 (呼)・有線2251 (呼)

●立科町児童館/午前11時40分～午後1時30分
電話 56-0303 (直通)・有線8889 (直通)

※予約をされる方は児童館または小・中学校の教頭先生へご連絡をお願いします。

平成二十一年四月より、立科町教育相談員として教育相談活動に携わっております。微力ではございますが、本年度もよろしくお願い申し上げます。

教育相談は、原則として毎週、月曜日・水曜日・金曜日に行います。午前中は立科小学校、昼の時間は立科町児童館、午後は立科中学校におりますので、ご希望の方は、電話でお申し込みください。不在の場合は、小・中学校の教頭先生、または、児童館に電話でお申し出をいただき、相談日時の予約をしていただきたいと存じます。

児童・生徒の成長上の問題や悩み、心配、不安には、必ず効能があるという処方箋はありません。しかし、お子さんの不登校やいじめ、反社会的な行為(非行)、集団不適應、適切な就学などについて、一緒に悩み、真剣に考え合うことよって、必ずや児童・生徒の成長と自立のための「何か」が見出せるものと信じております。

また、本年度も、「広報たてしな」及び「有線放送」を通して、ささやかな体験と、苦い反省や後悔に基づいた提言をさせていただきますので、親御さんご自身の心のフィルターで取捨選択され、子育てに生かしていただければ、幸いです。ご意見やご質問がございましたら、ぜひ児童館までお寄せいただきたいと思います。

日本の或る研究グループが、イギリスの歴史家アーノルド・J・トインビーの、発生から繁栄、衰退、没落を繰り返す諸文明についての歴史研究から、次のような、現代人が学ぶべき五つの教訓を導き出したそうです。

一、人々が、自らのエゴイズム(自己中心主義)を自制することを忘れたとき、そして、人々の心の中にエゴイズムがはびこるとき、その国家社会は自滅していく以外にない。

二、国民の一人一人が、難題を自らの力で解決するという自立の精神と気概を失うとき、その国家社会は滅亡するしかない。

三、インテリゲンチヤ(指導的な立場にある識者インテリ)が、勇気と自信を持って発言しなくなったとき、大衆迎合主義がはびこり、その国家社会は滅びざるを得ない。

四、古い世代が、やたらに物分かりがよくなり、若者に分厚い胸を貸すことを忘れるとき、若者は、ひ弱な精神と肉体に慢心し、その国家社会は衰える。

五、人の幸福や不幸というものは、決して金銭や物の豊富さによって計れるものでないという、ごく当たり前のことが忘れられるとき、その国家社会は救いようがなくなる。

その国は滅亡するというのです。大衆を先導すべき識者が、時の権力にへつらい、「是は是、非は非。」と発言しなくなったとき、また、知恵と経験を有する大人が、若者の「壁」になろうとしなくなったとき、その国は衰亡するというのです。さらにまた、心の豊かさを忘れ、金銭や物の豊富さだけが求められるようになると、その国は没落するというのです。

したがって、この五つの教訓は、物が豊かで、便利な生活に慣れきって、日本人としての大切なものを失いつつある我々の「精神の脆弱化」に対する痛烈な警告ではないでしょうか。なぜなら、多くの日本人は、日本の美風と直き心を忘れず、日々の生活を誠実に営んでいる、と思えますが、一部には、身勝手に、自分さえよければいいという不心得な人が増えていいると感ずるからです。「国民は常に未熟で、永遠に成熟しない。」と断言した大学教授がいますが、確かに国民の未熟さは増幅しているのではないかと感じます。

このような不心得な人間の増加は、国家社会というレベルだけの問題ではありません。市町村や地区、さらに、学校教育の場にも共通する深刻な問題で、決して立科町も例外とは申せません。町外の人捨てたゴミもたくさん混じっていると思えますが、毎日、児童館の厚生員が心を痛めながら拾い集めている、「風の子広場」周辺の空き缶や食べかす、紙袋